

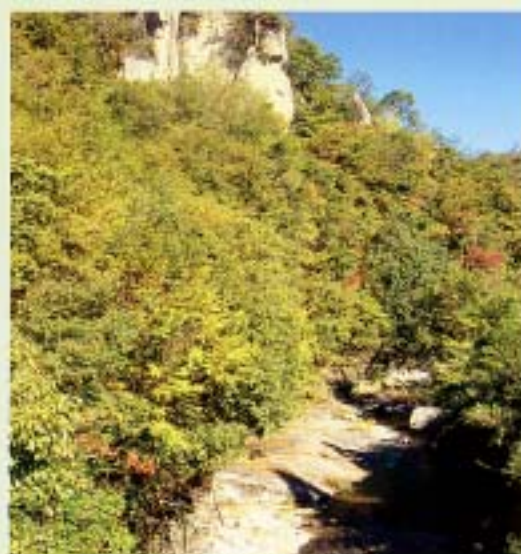
深耶馬溪地域の自然景観

耶馬溪の自然景観をつくる3つのタイプ

耶馬溪の景観は、河川の侵食作用でつくられた地形がもとであるが、地質によって3つのタイプに分けられています。最も古い時期の筑紫溶岩の英彦山や鷹ノ巣山のメサ・ビュートの地形は「旧耶馬溶岩の風景」、耶馬溪層の凝灰角礫岩がつくる青の洞門の競秀峰や古羅溪の景などは、「耶馬溪式風景」とよばれています。そして最も新しい耶馬溪溶結凝灰岩でできている一目八景や紅葉谷、立羽田などは「新耶馬溪式風景」とよばれ、深耶馬溪や裏耶馬溪がこれにあたります。



谷壁に立つ岩峰群(折戸の景)



函状の谷と石柱(奈女川)

函状の谷と谷壁がつくる特徴的な景観

深耶馬溪の景観は、耶馬溪溶結凝灰岩の台地とそれを侵食した函状の谷と谷壁の地形が特徴的です。谷壁に立つ岩石は、垂直に割れやすい節理をなしているため刃物で削いだような形の石柱や石柱群をつくり、深耶馬溪独特の溶岩風景を見せてくれます。折戸の景、七福岩、若山の景、一目八景、紅葉谷などはその代表です。

溪流環境に育つ豊富な植物相

多くの溪谷と石柱群からなる深耶馬溪は、霧の発生が多く空中湿度も高いので、コケ植物やシダ植物など植物相は豊富です。シダ植物と種子植物で126科736種を確認しましたが、前者はマツバランなど12科140種で県下全体の40%に及び、宝庫とされています。種子植物では国定公園の指定種や準指定種として、ヒメナベワリなど155種があげられます。



溪流に横たわる岩石に生えるシシラン(麗谷)



水辺に発達する渓流辺植物群落(錦雲峽)

水辺景観をひき立てる渓流辺植物群落

深耶馬溪には、山移川が枝分かれしたいくつもの溪流が見られる。これらの溪流には、水辺から河岸岩壁まで多様な植物群落が発達し、溪流辺の植生景観をつくっています。

水辺のツルヨシ群落をはじめ、セキショウ群落、ナルコスゲ群落、河岸の堆積地にはオオサンショウソウ群落、河岸岩壁にはイワタバコ群落などがあり、溪流のせせらぎと相まって静かな水辺景観をひき立てています。

溪流や石柱群と一体の景をつくる森林

深耶馬溪の一目八景や紅葉谷、綿雲峽、麗谷の谷にはイロハモミジ・ケヤキ群落が発達し、新緑や紅葉の季節は多くの探勝客をよんでいます。谷斜面はウラジログシ・サカキ群落やアオガシ群落がおおっています。

河岸の急斜面を登った尾根近くの岩角地にはツガ・ハイノキ群落やアカマツ群落が点々と見られます。深い谷や石柱群を埋めるように立っているこれらの林は、深耶馬溪の景には欠かせない森林です。



鹿倉の景の紅葉

森は野鳥たちの格好の寄り合い場所

深耶馬溪の深瀬川や綿雲峽、麗谷の森林にはメジロ、ホオジロ、シジュウガラなどの留鳥が多いが、夏にはキビタキ、クロツグミ、ヤイロチョウ、サンコウチョウの姿も見かけます。秋から冬にかけては広葉樹と針葉樹の適度に混交した森林は野鳥たちの越冬の格好の場所です。冬鳥では北国からのルリビタキ、ジョウビタキなどが群れて加わり、森は一年中野鳥たちのすみかです。



野鳥の寄り合い場所となる広・針葉混交林(麗谷)